

## 地方のトピックニュース



感の高い駅舎にする計画だ。

## ◆熊本支援「板倉の家ちいさいおうちプロジェクト」スタート

熊本地震からの復興を支援する「板倉の家ちいさいおうちプロジェクト」が10月1日からスタートする。熊本産のスギ材を使い、板倉構法によって安全・健康で低コストの避難用住宅を供給し、併せて森林整備も進めることを目指している。

同プロジェクトでは、板倉建築研究の第一人者である安藤邦廣・



板倉構法で「西原習合堂」を建築してる様子

筑波大学名誉教授らのグループと西原村商工会などが協力し、被災者の自宅敷地内に避難用の板倉家屋を建てる。すでに6月には、寄付されたスギ材を使い、大工有志とボランティアが協働して西原村内に「西原習合堂（しゅうごうどう）」が完成。解体材・端材を活かした木製家具や小物づくりのワークショップも行っている。

10月1日から本格展開するプロ

ジェクトでは、避難用住宅づくりと並行して阿蘇地区の里山（宮山）の手入れを体験するワークショップを行い、散策できる森をつくりながら、森が水を育むことなどを広く伝えていく方針。

日本古来の神社や穀物倉庫に用いられた板倉構法は、スギの厚板で屋根、壁、床を構成し、木の香りに包まれた健康的な空間を創出できる。また、耐震と防火構造の国土交通大臣認定を取得しており、建築費は150〜900万円程度におさまる。同プロジェクトに関する問い合わせ等は、九州大学芸術工学研究院の知足美加子准教授（☎092-553-4465）へ。

## ◆10月10日京都でフォレスター&amp;プランナー・ギャザリング

10月10日（月・祝）午前9時30分から福知山市の市民交流プラザふくちやまで「フォレスター&プランナー・ギャザリングin京都」が行われる。昨年、岐阜県で初めて「フォレスター・ギャザリング」（第519号参照）を行ったことを踏まえ、今回は対象者を森林施業プランナーにも広げて、林業技術者集団の横の連携強化を目指す。定員200名。参加費無料。

また、前日の9日（日）午後6時15分からは、ドイツのフォレスター教育関係者をゲストに招いて「フォレスター・ミニ・ギャザリングin京都駅前」（定員30名、会費500円）も実施する。問い合わせ